

E：社会人になっても使えるような教育

職員・教員・学生・卒業生の交流会
～社会人になっても使えるような教育のために

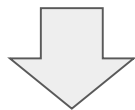
チームメンバー：三浦 中原 水野 平井 石原

1. チームで合意した最優先の問題点・解決策

問題点

全員が主体性に富む学生と見てよいのか。

どうやったら、授業が楽しいと思ってもらったり、社会に役に立つと思ってもらえるか。意欲や主体性を喚起できるか。

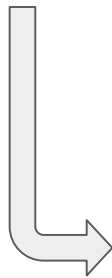


解決策

交流・コミュニケーション能力の向上が図れる場があるといい（グループワークや外で体を動かす機会などもいい）

2. 誰と問題を解決してゆくか

学生、教員、事務職員の三者のwin-winな関係づくり

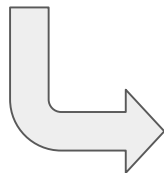


学生がどういうニーズを持っているかを把握したい。

職員に対して遠慮してしまっ、（教員が）自己解決にはしてしまう。

わからないことがあっても、互いに聞きやすい感じにもっとできないか。

互いに情報共有がうまくできていない状況が多いので、それが解決できれば。



学生（卒業生も）・教員・職員のすべてが、問題解決に参加するのが望ましい

3. 10年後を想定した最適な解決策 (今回の研修時点での最適解)

交流会を実施する。

そのためのツールとして、互いにフィードバックを届けられるシステム（SNS）なども構築する。

4. 想定される問題点・困難点

告知・宣伝の問題。社会人も参加することも想定しているが、どう実現するか。

参加者が少ない可能性もあり得る。どうしたら、参加しづらいという印象を抱かれないか。意欲的でない学生の参加をどう実現するか。

時間・頻度、場所、どんな人が集まるか、グループのようなものを作るのか、費用は？といったことを検討してみてはどうか。

対処方法の検討

（実施）オンラインで実施してみてはどうか。あるいは、茶話会や食事会という形も考えられる。授業の最終週などを使って実施することもある。社会人には休日開催もいいかもしれない。

（告知）ネット以外にもポスターで告知する。入学時のプリントなどでも告知。

（学生へのアピール）インターンで1単位もらえるように、単位を提供する。成績に反映させる。

（ツール）LINEやインスタグラムなどSNSでの告知。LINEグループへの投稿に類似した投稿手段を考えることで、情報共有・意思疎通。

5. 対象となるステークホルダーがどのような恩恵を受けるのか？

協働関係が構築できる。互いの垣根が低くなる。互いの姿が見えるようになり、確認しつつ業務や学業に励める。

互いに新しい視点を獲得することができる。

新しい人と出会うことができ、それも刺激になる。

情報共有ができる。

信頼感や満足感が増す。

大学に通ってよかったと思える機会が増える。

6. 恩恵・見いだした価値をどういう形で可視化するのか？成果をどう形にするのか？

交流会を一度きりにしないで、定期的に行い、その中で報告の機会を作る。

関大HPにページを作り、外部の人からも見ることができるようにする。

→交流の成果や近況を紹介できるような情報もホームページに掲載する。

成果を冊子などにまとめて、共有できるようにする。

交流会の人的コネクションが活用できるように、SNSなどのツールで普段から連絡が取り合えるようにする。

7. うまく機能したことをどうやって証明するのか？成果をどう可視化し、証明するのか？

（証明） アンケートを実施する。

実際に交流の実績を作る。

同窓会、社会連携、キャリアセンターなどの部署とwin-winな関係を構築する。

（発信） 他の大学・海外の大学との交流機会を作る。交流会のSNS（日本語／英語）も作成して活用する。実績についての報告をホームページなどで行う（日本語／英語）。

発表は、以上です。

（ご清聴ありがとうございました）